

いい夏休みを送れましたか。私はみんなの大会での姿を見させてもらって、おかげでいい夏休みとなりました。野球部の県制覇の快挙は物語ともなるような様々なことが重なり合って、つながって果たされたものです。「全員野球で県制覇」を目標に掲げ、やり遂げた姿は立派です。でも、敗れてしまったけど、目標には手が届かなかったかもしれないけど、それに向かって必死にやるそれぞれの部の姿もとても素敵でした。吹奏楽部のコンクールでの演奏は会場の空気が変わるほど、引き込まれました。柔道部は3年生4人だけで、強敵に立ち向かい、最後まであきらめずに戦う姿に心打たれました。バドミントンでは関東大会に手が届くところまでいながら、わずかに及ばずでした。しかしそれぞれが自分たちの力をここまで伸ばし、成長してきた証がそこにはありました。目標というものは掲げてそれをめざして努力します。目標は大事です。でもそこでつかんでほしい目的はまた違うところにあると思います。3年生は多くが部活動を引退しました。3年間で培ったものを大切にしてください。1・2年生は3年生の姿から得たことをこれからに活かしてください。

8月もあと1週間となりました。こんな俳句があります。「八月や六日九日十五日」ただ、日を並べただけの俳句です。でも、そのことを思うと心がしめつけられます。77年前、ヒロシマ、ナガサキに原爆が投下され、終戦を迎えた日です。そして、毎年、亡くなった方を悼み、二度とそういう悲しみを繰り返さないようにと受け継がれている日です。身延中では修学旅行で広島に行っています。今年も被爆者の方から直接、そのときの話を、それからの話を聞き、二度とこういう悲劇を起こさないでほしいと伝えられました。感想で「平和がずっと続くように、原爆が落ちたということを次の世代にも残せるように勉強していきたい」と言ってくれました。私も戦争は知りませんが、子どもの頃大人はみんな戦争を知っていました。あなたたちは直接そういう話を聞ける最後の世代です。

では、6月23日は何の日か知っていますか。今年は何の年だったので、知った人もいると思いますが、8月の日ほど知られてはいないと思います。先日、先生たちは「はっちゃんの沖縄戦」という本を書いた身延町出身の高野先生の講演を聞きました。今年に沖縄が日本に復帰して50年でテレビや新聞でも様々な特集が組まれ、先生のことでも紹介されました。戦争が終わって77年なのに、復帰は50年です。広島、長崎はもちろん、東京、甲府も空襲を受けました。でも「沖縄戦」のように「何々戦」と「戦い」の言葉がつくのは沖縄だけです。アメリカ軍が上陸してそこで戦闘を繰り広げられたのは沖縄だけだからです。その戦いが終わった日が6月23日、「慰霊の日」とされています。この戦いで亡くなった方は20万人、そのうち民間人は10万人近いと言われています。どうしてこんなことになってしまったのでしょうか。「はっちゃんの沖縄戦」の本は学級文庫にあるのでぜひ読んでください。今もウクライナで苦しい思いをしている方たちがいます。あまり報道されないけど、シリアやイエメンなどの内戦もひどい状況のようです。私たちにできることは多くないかもしれませんが、でも少なくとも様々な背景を含めたそういう事実を知ること、悲しみを繰り返さないよう、思いや事実を受け継いでいくことは大切なことなのだと思います。

最後に輝桜祭です。いよいよです。みんなにとって、身延中にとって最も大切な行事と言えるものです。それぞれが「星（スター）」となって輝き、クラスが全校が団結した力を見せる時です。優勝したい、劇を成功させたい、いろんな目標があります。それを通して得られる目的を意識して大切にしてください。校訓「自立協働創造」へ向かう力も一番つけられる時です。ぜひ自分たちの力で、仲間とともに、身延中でしかできない、このメンバーでしかできないものを創り上げましょう。コロナは夏休み期間中も日本中で厳しい状況が続いています。本校でもこれから陽性になる人が出ても何の不思議もありません。もちろん十分注意し、これまでどおり対策は徹底していきます。でもそれでも陽性になる人が出て、場合によって輝桜祭の予定が変更になる場合もあるかもしれません。1学期の休校の時も一番苦しい思いをしている感染してしまった人にみなさんは温かく接してくれました。もちろんそれぞれが十分注意をした上で、ぜひお互いのことを思いやりながら、コロナ禍の中での輝桜祭を最高のものにしましょう。たくさんの感動を楽しみにしています。